

# N. 野崎造園新聞

**2017年新年号** 第86号  
 発行所 株式会社 野崎造園(本社)  
 〒203-0044 東京都東久留米市柳窪 4-14-22  
 Tel 042-471-4635(代) Fax 042-471-4856  
<http://www.nozaki-zoen.co.jp>

練馬営業所  
 練馬区上石神井 4-27-15  
 レジオンス上石神井 210  
 Tel 03-5927-0339

さいたま営業所  
 埼玉県さいたま市桜区  
 下大久保 1127-1-204  
 Tel 048-851-6418

## 日本三名園の話

旅の途中、全国各地の日本庭園を訪れる方もいるかと思われませんが、その中でも「日本三名園」といわれているものを紹介いたします。



美しい日本庭園は、世界に誇れる観光資源でもある(岡山後楽園)

### ～今月の花木～



#### マンサク 満作・万作

マンサク科・落葉小高木・本州以南及び中国原産  
 早春に他の花に先駆けて咲くため、「まず咲く…マンサク」、枝いっぱいにつけるので「豊年満作から…満作・万作」となったらしい。

日本三名山、日本三景から三大珍味、三大成人病など三(大)ナントカとはよく言いますが、日本庭園のなかにも「三名園」といわれるものがあります。石川県金沢市の「兼六園」、岡山県岡山市の「岡山後楽園」、茨城県水戸市の「偕楽園」の三つの日本庭園を「日本三名園」といいます。

明治時代に発行された外国人向けの冊子に「日本三名園」として紹介されましたのが始まりのようです。この三名園の背景には、中国の唐の時代の詩人、白居易の詩の中に自然の美しい風景を指す「雪月花」という言葉があり、雪に「兼六園」、月に「岡山後楽園」、花に「偕楽園」を対応させたという説があります。雪つりが有名な兼六園、梅の名所の偕楽園は、なんとなく説明がつかますが、月の「岡山後楽園」は上手く説明がつかない気がします。三名園の由来は曖昧なまま、言葉だけは世の中に定着しているようです。

場所も大きく離れている日本三名園に共通しているのは、江戸時代に造られた規模の大きい、回遊して楽しむ大名庭園であるということです。

全国には三名園以外にも美しい、特色のある日本庭園は数多くあります。庭園観賞は観賞者の興味や知識、時期や天候によって受ける印象や楽しみ方が異なりますが、日本各地の様式や規模の異なる庭園を見比べてみるのも、旅の楽しみの一つではないでしょうか。

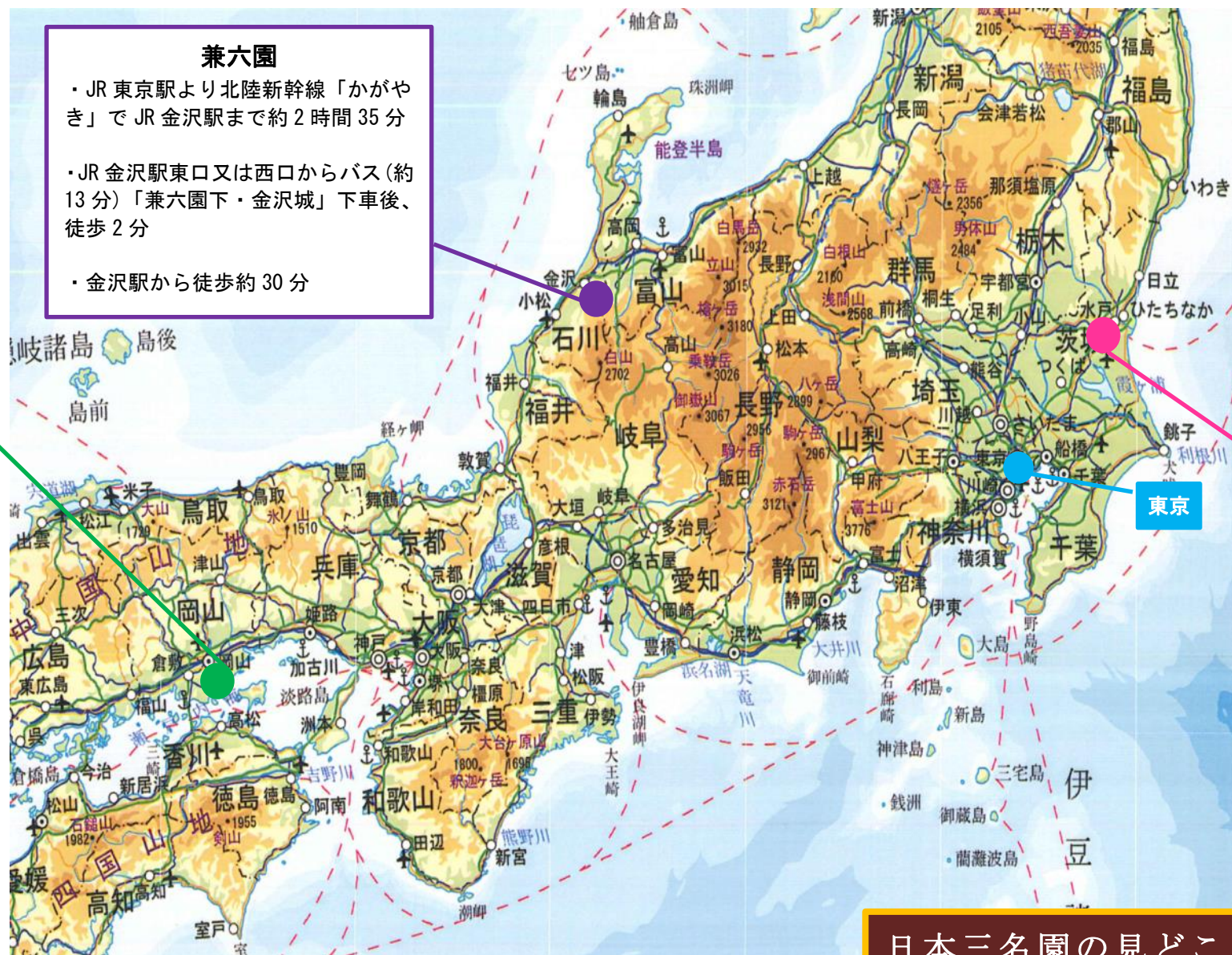
## 日本三名園の位置と東京駅からのアクセス

旅行が好き、庭園めぐりが好きな方は、日本三名園をコンプリートする旅は、いかがでしょうか。

東京駅—岡山駅間 732.9km(JR 営業中)

東京駅—金沢駅間 450.5km(JR 営業中)

東京駅—水戸駅間 121.1km(JR 営業中)



#### 兼六園

- ・JR 東京駅より北陸新幹線「かがやき」で JR 金沢駅まで約 2 時間 35 分
- ・JR 金沢駅東口又は西口からバス(約 13 分)「兼六園下・金沢城」下車後、徒歩 2 分
- ・金沢駅から徒歩約 30 分

#### 岡山後楽園

- ・JR 東京駅より東海道・山陽新幹線「のぞみ」で JR 岡山駅まで約 3 時間 20 分
- ・岡山駅から市内電車東山行きで 4 分「城下」下車後、徒歩 10 分
- ・岡山駅から徒歩 25 分

#### 偕楽園

- ・JR 東京駅より常磐線特急「ひたち」で JR 水戸駅まで約 1 時間 25 分
- ※梅まつり期間中、偕楽園脇の JR 偕楽園臨時駅が開設する際には、停車する電車もあります
- ・水戸駅北口から偕楽園行きバスで約 20 分
- ・水戸駅から徒歩約 40 分

日本三名園の見どころは裏面へ



# 日本三名園の見どころ

それぞれの庭園は、現在でもその都市を代表する名所として、多くの人が訪れます。一歩中に入れば、都市の喧騒を忘れさせ、一度行った場所でも季節を変えて訪れれば、また新たな魅力が感じられます。



## —兼六園（けんろくえん）— <特別名勝>

何代もの加賀藩主により長い年月をかけ造られてきた庭園です。宏大・幽邃、人力・蒼庫、水泉・眺望の六勝を兼備するという意味で「兼六園」と命名されているように、庭園内には様々な見どころが散りばめられています。兼六園は海拔 53m の高台にあり、近くに川もありませんが、豊かな曲水が流れ、大きな池があります。その水は江戸時代に造られた辰巳用水を利用しています。

観光資源に恵まれた金沢の中に於いても、代表的な観光スポットであり、年間を通して多くの観光客が訪れます。定番でもある灯籠と池の写真はいつも多くの人が撮影しています。

世間の多くのレジャー施設や交通機関などは、人出が多いとき（繁忙期）には値上げをする傾向がありますが、兼六園に関しては多くの人が訪れる期間は大人 310 円の入場料を逆に無料にしています。手入れや清掃の行き届いた庭園でもあり、たまたま春の桜の咲く時期や年末年始に行ったところ無料開放となっており、有り難くも少し申し訳ない気持ちになりました。

## —岡山後楽園（おかやまこうらくえん）— <特別名勝>

岡山藩 2 代藩主、池田綱政公が家臣に造らせた庭園です。旭川をはさんで岡山城の北側、つまり城の後ろにあることから最初は御後園とよばれていました。今では橋が架かっていますが、かつては藩主がお城から船で川をわたり、御舟入（船着き場）から園内に入っており、その跡は現在も園内に御舟入跡として残っています。明治時代になり、園を一般に開放するにあたり、後楽園と改めました。

昨年 11 月に初めて訪れましたが、広大な野芝の庭園が広がり、非常に開放感のある印象を受けました。芝地の面積は 19,600 m<sup>2</sup> もあります。さらに、豊かな水を引き込んだ大規模な曲水や池もあります。

岡山後楽園と合わせて旭川の対岸にある岡山城は是非訪れたいところです。入場料も庭園とお城のセット購入すれば大人 560 円です。天守閣は空襲で焼け、戦後昭和 41 年に再建された鉄筋コンクリート造りですが、外観は焼失前を再現しています。天守閣内はエレベーターもあり、庭園めぐりで疲れた体にもやさしいお城です。



## —偕楽園（かいらくえん）— <名勝>

水戸藩 9 代藩主、徳川斉昭公は千波湖を望む七面山を切り開き、領内の民と偕（とも）に楽しむ場にしたと願い、自ら設計指揮して「偕楽園」を造りました。13ha の園内には約 100 品種・3,000 本の梅が植えられ、早春には多くの観光客で賑わいます。

大名庭園にしては珍しく大池泉のない庭園ですが、それは園の眼下に隣接する千波湖を借景としているからです。園内にある好文亭の 3 階、楽寿楼から眺める千波湖などの眺めは現在に於いても格別です。大人 200 円の入館料を払っても入る価値はあります。

年によって梅の開花時期は多少異なるため、大部分の梅が咲きそろそろ見頃に訪れるには、最新の開花情報の確認が必要です。

日本三名園の他の二園に比べ、常時本園は入場無料なこと、園内に大池泉がなく、松や石組みなどが他の二園と比べて少ないことなどから、庭園というより公園的な印象を受けました。園をめぐると順番は表門から入り竹林や杉林を眺めてから梅園方面に行く「陰から陽」へのルートがオススメらしく、今度はそうしたいと思います。